

今月の表紙

俺たちのスイカ

(撮影:岡本 明日香様)

第7回「がんばろう熊本 未来に伝えたい農業・農村の風景」
フォトコンテストで、RKK賞を受賞された方の作品です。

- 日米首脳会談開催～日米間に温度差～
- 熊本県農協青壮年部協議会 第64回通常総会開催
- JA熊本県女性組織協議会 第66回通常総会開催
- 第8回未来に伝えたい農業・農村の風景フォトコンテスト
- 参議院議員藤木しんや氏コラム
- 参議院議員山田としお氏コラム
- JA鹿本青年部活動報告
- 中央会・連合会からのお知らせ

農政連情報

みどりの風

2019(令和元)年 JULY vol.354

あぜみち

4月に行われた県議会議員選挙では、本県農政連が公認・推薦した候補者34名のうち、見事33名を県政に送り出すことができました。この結果は、盟友の皆様の運動の結果が実を結んだものと感謝を申し上げる次第であります。

さて、次は夏の参議院選挙が近づいています。今年は、統一地方選挙と参議院選挙が同じ年に行われる12年に1度の亥年で、過去の亥年選挙では自民党が苦戦を強いられた経緯があり、我々が推薦している候補者にその影響が出ないか心配している。

今回の選挙において農政における大きな課題・争点は、日米貿易交渉の行方や、この秋にも山場を迎えると想定される農協改革である。

官邸が貿易交渉や農協改革を主導している中で、我々の主張や要望を反映させるためには、農業・JAに理解のある国会議員を増やし、世論形成していくなければならない。

さらに選挙で獲得した票数は、各政党やマスコミ等にJAグループ・農政連の存在感を示すとともに、政治力と影響力に直結する。

本来、農業という産業が、選挙や政治に翻弄されることがあつてはならないと思う。しかし、現実が伴わない以上、我々は、農政運動を通じて声を上げ、我々の代表者にその思いを託すばかりだ。

我々盟友一人ひとりは、その思いを実現するため、票を投じようではないか。

発行/熊本県農業者政治連盟

熊本市中央区南千反畠町2番3号 電話 096-328-1284 責任者 中川 伸一
発行日/令和元年5月15日 毎月1回 5月発行
定価/1部50円 但し、会員の購読料は会員の半額

日米首脳会談開催（日米間に温度差）

安倍晋三首相とトランプ米大統領は5月27日、東京・元赤坂の迎賓館で会談し、日米貿易交渉で早期妥結へ向け、協議を加速させる方針で一致しました。

トランプ氏は、日本が米国産牛肉の輸入月齢の制限を撤廃したことを念頭に「日本市場に全面的に参入できるようになつた」と成果として強調。日本市場の一層の開放、早期合意への意欲を改めて鮮明にしました。「8月に両国にとつて良い内容が発表できる」と表明し、共同記者会見では、日本が関税協議の土台とする環太平洋連携協定（TPP）に「縛られない」と強調、農業・自動車分野での貿易不均衡の是正をめぐり、日本側に強い圧力をかけた模様です。

日米首脳会談における日米の主な主張

【日本】

農畜産物	米国が自動車関税を撤廃しなければ、農畜産物の関税（TPPの範囲内）は下げられない
自動車	米国は自動車関税をTPPと同様に撤廃・削減を

【米国】

日米首脳会談を受け茂木敏充経済再生担当相は5月28日、日米貿易交渉に関し、日本が米国の農畜産物にかける関税の撤廃・引き下げは米国が離脱したTPPの内容が最大限と改めて主張しました。昨年9月の日米共同声明では、「こうした日本の立場を米国も『尊重する』としており、前提は変わらない」と茂木氏は強調しました。

また、日米首脳会談でトランプ氏が貿易協議の妥結を夏の参議院選挙直後の「8月に発表できるかもしない」と述べたことについて「迅速に協議を進めたいと、期待感を述べたもの」との見方を示し、具体的な合意時期は現時点で決まっていないと説明しています。

ています。

熊本県農協青壮年部協議会 第64回通常総会開催

熊本県農協青壮年部協議会は5月10日、JA熊本経済連7階ホールにおいて第64回通常総会を開き、県内盟友や関係者ら約80名が出席しました。

前本勝委員長は、昨年度の豪雨や地

震の被災地支援に力を入れたこと、国際情勢では環太平洋連携協定（TPP）などが発効し、国内農業への影響が懸念されるとして「農家の所得や生産性の向上、地域の活性化に取り組みたい」とあいさつしました。



▲あいさつする前本委員長

前本勝委員長は、昨年度の豪雨や地震の被災地支援に力を入れたこと、国際情勢では環太平洋連携協定（TPP）などが発効し、国内農業への影響が懸念されるとして「農家の所得や生産性の向上、地域の活性化に取り組みたい」とあいさつしました。

熊本県農協青壮年部協議会は5月10日、JA熊本経済連7階ホールにおいて第64回通常総会を開き、県内盟友や関係者ら約80名が出席しました。

最後に、国際貿易協定から持続可能な国内農業を守るために、万全な国内対策と予算確保の要求と農業経営向上、地域の活性化に取り組むことや、組織活動のさらなる強化と盟友の結束力を高めるため、新規部員の加入を促進する「青壮年部加入促進「二声」運動」に取り組む特別決議を読み上げ、参加者全員の拍手をもって採択しました。



▲選任された新副委員長の藤本さん



▲JA青年組織綱領を唱和する盟友

J A 熊本県女性組織協議会 第66回通常総会開催

J A 熊本県女性組織協議会は5月13日、合志市のJA熊本教育センターで第66回通常総会を開き、部員ら約140名が出席しました。

同協議会の上村悦美会長は「高齢化や担い手不足によつて農業生産基盤の弱体化が危惧される中、正念場を迎えてJA自己改革を私たち女性部も全力で後押ししましょう」とあいさつしました。

総会では、JA自己改革を後押しする3カ年計画の実践等、5議案が承認されました。役員選任では、上村悦美会長と太田桂子副会長を再任し、JA熊本市の瀬上力子さんを副会長に選任しました。



▲選任された新副会長の瀬上さん



▲重点活動計画を説明する上村会長



▲JA女性の歌を合唱する参加者たち

総会後の研修会では、一般社団法人日本協同組合連携機構（JCA）の佐藤憲司氏が「1からのSDGs」と題して講演しました。また、熊本わくわく体操ボランティア協会の田中和恵氏による健康体操が行われました。

総会後の研修会では、一般社団法人日本協同組合連携機構（JCA）の佐藤憲司氏が「1からのSDGs」と題して講演しました。また、熊本わくわく体操ボランティア協会の田中和恵氏による健康体操が行われました。

計画の着実な実践②安全安心な食をする活動の推進③農業情勢の学習及び発信④地域を担う活動の促進⑤仲間づくりの推進、次代のリーダーの育成⑥JA運営への参画一を掲げました。

また、SDGs（エスディージーズ）の取り組みに関する特別決議も行われました。SDGsとは、国連が採択した、持続可能な社会の実現のための17の国際目標です。女性部の活動はSDGsの理念そのものであり、活動を通じて世界の課題解決に繋げていくことを採択しました。

2019 Photo Contest Kumamoto

**第8回
未来に伝えたい
農業・農村の風景
フォトコンテスト**

応募テーマ
【農業・農村の美しい四季の風景】
【風景と農作業】
【地元の祭りや催事】
【農畜産物を食べている人物の写真】など

web・スマートフォンからご応募ください。

web 応募先
<http://rkk.jp/japhoto/>

フォトコンテスト応募ページよりご応募ください。

スマートフォン応募先

japhoto@rkk.jp

QRコード

①名前②郵便番号③住所④TEL⑤メールアドレス⑥年齢⑦作品名を必ず明記の上、ご応募ください。(未記入の場合は応募対象となりません。)

■主催/JAグループ熊本、RKK熊本放送 ■協賛/「熊本みどり・食・環境基金」 ■後援/熊本県、熊本県教育委員会、熊本日日新聞社

(3) No.354 みどりの風 2019.6.15

全国農政連推薦・県農政連公認
参議院議員藤木しんやの

永田町でも百姓宣言

「本当に大事なことは何か」

【多様な農業経営の発展に資する政策の強化】

4月24日東京都内で「食料・農業・地域政策確立全国大会」が開催されました。

この大会では①食料安全保障の確立②多様な農業経営の発展支援③災害に強い農業基盤の実現④地域政策の拡充が、大きな柱であつたと思います。地域農業を次世代へ継承することが重要です。

しかし、農村部では気候風土や地理的条件などの制約があり、現在の農政が目指す規模拡大や企業による農業生産への参入といった施策の推進にミスマッチが生じている地域も少なくありません。

農業生産を維持するためには、中心的な扱い手だけでなく、小規模でも営農意欲のある農家や農業を志す新規就農者などに対して、持続的な農業経営に向けた支援を強化することが大切です。また集落営農組織など地域で共同して取り組む場合にも同様の支援が必要です。

国際的に農業は、農業振興だけでなく、地域社会や環境・文化の振興という面で大きな役割を果たしていると評価されています。



【子ども達のために農業を考える】

日本の食料自給率が過去最低となる水準で低迷する中、農林水産業の生産基盤の縮小に加え、相次ぐ自然災害の発生、国際貿易交渉の進展など、国民全体で農業を食料安全保障という観点から考えていかなければなりません。同時に、国民が理解を深め、国全体で農業を応援していくという機運を高めていく必要があります。

私も孫と接していると幼少期の児童が食農教育に触れる機会はかけがえのないものだと感じます。

JJAでは既に取り組んでいます。こうした取り組みを積極的に支援し、次世代を担う子ども達のためにわが国の食

JJAでの集まりは、農業者が多く、皆さん、農業の将来を支える人です。そして、農業の経営所得安定対策についての日米・日仏の比較について大変関心が深い。我々は、地域重視、家族農業重視の農業国であるフランスやイスラエル等の取り組みを評価すべきです。農業者の農業所得に占める補助金の割合も、日本は30%程度ですが、フランスは95%、イギリスは91%、ドイツは70%と、いかにヨーロッパの国々が家族農業を大事にしているかがわかります（東大の鈴木先生のグループによる報告書）。

私のこの報告に対しても、皆さん大きな関心を示していただき、終わってからの拍手も多く、握手の際も「頑張りましょう」と声をかけていただ



▶国会内で農政課題を協議

全国・県農政連推薦
参議院議員山田としおの
農政問題に駆り込む

【熊本県のJJAを訪問しました】

【女性部の「明日輝くために」の歌声に感動】

5月13日～14日にかけて、熊本県内のJJAを回らせていただきました。巡回にあたり、中央会の宮本会長と経済連の加美会長にご同行いただき、感謝申し上げます。

阿蘇から菊池・鹿本と、圃場が綺麗に耕作されている風景を見て、その生産力に感動しました。

JJAでの集まりは、農業者が多く、皆さん、農業の将来を支える人です。そして、農業の経営所得安定対策についての日米・日仏の比較について大変関心が深い。我々は、地域重視、家族農業重視の農業国であるフラン

スやイスラエル等の取り組みを評価すべきです。農業者の農業所得に占める補助金の割合も、日本は30%程度ですが、フランスは95%、イギリスは91%、ドイツは70%と、いかにヨーロッパの国々が家族農業を大事にしているかがわかります（東大の鈴木先生のグループによる報告書）。

JAあまくさを訪ねましたが、ちょうど女性部大矢野総支部の総会も開かれており、皆さんの「明日輝くために」の歌声が聞こえました。天草四郎の祈りの島での合唱は、皆さんの心の協同を示すようで感動的でした。皆さんから頂いた要望の実現を目指すとともに、美しく力強い熊本県の農業を守り、発展させていくため全力をあげます。



▶農業者の皆さまの前で国政報告

JJA鹿本青年部活動報告

JJA鹿本青年部は、山鹿地区（35名）菊鹿地区（16名）鹿本町地区（10名）鹿央地区（21名）植木地区（81名）の5支部163名で構成され、様々な活動を積極的に行っています。近年の主な活動をご紹介します。

食農教育活動

地元の子供達と「夢大地キッズ農園」と称し、野菜の定植・収穫活動のサポートをし、また、田植えや稻刈り、スイカ栽培等の農作業体験を行っています。子供達と一緒にになって参加し、農業を楽しく理解してもらうため、これからも青年部の活動を充実させていこうと思います。



▲キッズ農園の収穫体験

親善スポーツ大会



▲ビーチバレー大会で親睦を深める盟友

組織・盟友主張発表大会

盟友の交流を深める活動として、青年部親善スポーツ大会を行っています。例年、ビーチバレー大会を行なっており、全盟友参加し和やかななかにも、ボールに飛びつき、真剣に戦う姿に多いに盛り上りました。さらに大会後の懇親会では、幅広い話題で盟友同士の親睦を深めました。



▶JA全国青年大会の「青年の主張」で最優秀賞を獲得した横田大輔氏

地域と密着した活動

私達青年部は「青年部組織・盟友主張発表大会」にも力を入れて活動して地元の人々に喜んでもらっています。

最後に一言

JJA鹿本青年部は、その他いろいろな活動を行っていますが、これからも、地域農業をより盛り上げていくために様々な活動に着手していくこうと考えています。



▲婚活イベントの様子

結婚活動

独身盟友を募り、婚活セミナーや地元農産物の収穫など、様々な催し物を考え、婚活にも力を入れています。



▲温泉宅配の様子

います。その中でも、第65回JA全国青年大会「青年の主張」において菊鹿支部の横田大輔氏が最優秀賞を獲得。日常生活の中で、日々の作業の中で思うこと、各支部の代表者達が力の限り熱く語ります。今後も、農に関わる人間として意見を発信し、活発に活動していきたいと考えています。

J A中央会

コア人材育成「JA熊本中央会「未来塾」開校式

J A熊本中央会は5月9日、合志市のJA熊本教育センターで2019年度JA戦略型中核人材育成研修「未来塾」の開校式を行いました。農業・JAを取り巻く環境変化に適応し、JA自己改革を進めるために、その運営を担う中核人材を育成するのが目的です。県内JA・連合会から選抜された14人が参加しました。



▲研修生を激励する宮本会長



▲宣誓するJAやつしろの瀬崎寛大さん

宮本隆幸中央会会長は「農業・JAを取り巻く環境が激変する中、本県JAグループは平成30年12月のJA県大会で、さらなる自己改革に取り組むことを決議した。自己改革の実践はJAグループの使命。この一年間「未来塾」でしっかりと学び、JAの中核として自己改革に取り組まれることを期待する」と激励しました。

未来塾は、環境変化に対応できる人材育成を目指し、2004年度に開始しました。15年間で208名の修了生を輩出しています。

した。研修生を代表し、JAやつしろの瀬崎寛大さんが「組合員の負託に応えるJAづくりのためにしっかりと学びたい」と宣誓しました。
今後、全10回の研修でグループ討議や演習を通して、マーケティングや組織マネジメントなどを学び、来年1月には修了证书発表会を予定しています。



▲真剣な面持ちの研修生たち

J A 経済連

令和元年度農作業安全運動出発式

「農作業事故ゼロを目指す」

J A熊本経済連と熊本県JA農機自動車技術指導士会は5月

上旬、経済連ビル前駐車場でJAグループ熊本農作業安全運動の出発式を行いました。JAや連合会役職員、熊本県などから約200人が出席し、農作業事故防止に取り組むことを誓いました。

運動では、通年で県内の農家組合員へ事故防止を呼びかけます。

経済連の加末誠一会長はあいさつで「農家組合員の安全意識向上のためにも、農作業安全講習会等の開催を行っている。5・9月の約2ヶ月間を特別推進期間と定め、県内全域を行い、組織を挙げて事故の撲滅に取り組んでいく」と決意を新たにしました。



J Aグループ熊本



▶職員一同に見送られて出発した広報車

全国では毎年300件近くの農作業死亡事故が発生し、約7割が機械作業に係る事故となっています。県とJAグループ熊本は、関係機関と連携を進め啓発活動を強化します。「農作業事故ゼロ」を目指し、農作業安全広報用のチラシ5万枚、ポスター80枚を用意しました。また農作業安全には、家族や仲間からの「声かけ」運動の実施により事故が減ります。農繁期を迎える安全な農作業への更なる意識向上が求められます。

「JA共済アンパンマン交通安全キャラバン」開催!!

「JAあまくさ(5/25・26)・JAたまな(6/1・2)」

JA共済では、次世代を担う子どもたちの交通マナー・ルールの学習および組合員・地域住民とのふれあい活動を目的として、「JA共済アンパンマン交通安全キャラバン」を開催しています。熊本県下では、平成20年度より実施しており今回で22・23回目の開催となりました。

イベントでは、子どもたちに大人気のアンパンマンとその仲間たちが



©やなせたかし／フレーベル館・TMS・NTV

登場し、楽しみながら青信号・赤信号の意味を覚えるゲームやダンスなどで盛り上りました。また、イベントの最後ではアンパンマンたちとの握手会も行われました。

JA共済では、これからも地域のみなさまとの絆を大切にしながら、地域貢献活動の積極的な取組みを通じて、安心して暮らせる豊かな地域社会づくりに貢献していきます。

【熱中症の危険性】

熱中症は、条件によって「いつも」「どこでも」「だれでも」かかってしまう危険性があります。症状が深刻なときは命に関わることもありますので、熱中症に対する正しい知識と予防法を理解しておく必要があります。自分の体調変化に気を付けるとともに、周囲にも気を配り、熱中症を予防していきましょう。

【主な熱中症の症状】

- ・めまい、立ちくらみ
- ・筋肉のけいれん
- ・頭痛
- ・吐き気、嘔吐
- ・倦怠感
- ・まつすぐ歩けない
- ・体温の上昇
- ・意識がない 等

【熱中症の注意点】

炎天下での運動や作業時以外でも、日常生活の中で起こる熱中症も多くあります。エアコンのない室内や通気性の悪い場所では、寝ている時や、動かず静かにしていても熱中症をおこす危険があります。また、子供と高齢者に関しては、体温の調節機能が低いので特に注意が必要です。



JA厚生連

【熱中症予防】

熱中症疑いの人をみかけたら、意識の確認をし、涼しい場所へ移動させます。その後、衣服を緩め、体を冷却し、スポーツドリンク等の経口補水液を補給しましょう。意識がない場合や、症状が改善しない場合は、すぐに救急車を呼ぶか、近くの医療機関に搬送しましょう。

【熱中症予防】

日頃から、散歩など汗をかく運動を中心掛け、暑さに慣れていくようにしましょう。また、水分と塩分をこまめに摂ることや、バランスの良い食事、快適な睡眠も丈夫な体を作ることにつながります。外出する際は帽子をかぶり、通気性が良く、吸湿性・速乾性のある衣服を着用するなど工夫をすると良いでしょう。

【症状後の対応】

熱中症の危険性

熱中症疑いの人をみかけたら、意識

の確認をし、涼しい場所へ移動させま

す。その後、衣服を緩め、体を冷却し、

スポーツドリンク等の経口補水液を補

給しましょう。意識がない場合や、症

状が改善しない場合は、すぐに救急車

を呼ぶか、近くの医療機関に搬送しま

しょう。



あなたにぴったりの
保障をお届けします。



くらしの保障、相談するなら



●ご加入にあたりましては、お近くのJA(農協)へお問い合わせください。
■JA共済ホームページアドレス <https://www.ja-kyosai.or.jp>

19481050178

えこめ牛(JA菊池) 6月9日放送



KAB熊本朝日放送にて毎週日曜日PM5:55~OA!

アスパラガス(JA阿蘇) 6月23日放送



ストップ 農作業事故!!

全国で 農作業事故が多発



安全確認忘れずに!



JJAグループ熊本

●盟友の皆様のご意見や周辺地域の話題、写真などを寄せ下さい。
連絡先 熊本県農業者政治連盟

(電話) 0961-328-11284
(FAX) 0961-326-15807
JA熊本県会館10階

また、アントシアニンは強い抗酸化作用を持っていることから、アンチエイジング効果も期待できそうです。

栄養素で代表的なものが、ポリフェノールの一種であるアントシアニンです。目の網膜細胞の再生成を助ける働きがあり、眼精疲労回復や視力低下を防ぐ働きがあること。

第6回「がんばろう熊本未来に伝えたい農業農村の風景」フォトコンテストで、入選された方の作品の中の1点です。

6月から8月にかけて夏に収穫される、

栄養価の優等生ブルーベリー。

栄養素で代表的なものが、ポリフェノールの一種であるアントシアニンです。目の網膜細胞の再生成を助ける働きがあり、眼精疲労回復や視力低下を防ぐ働きがあること。

「ブルーベリーじいじの畑」



撮影者 米満 あずさ様(熊本市)

が
あ
き
と